

かなたからのひかり —— 目次

大宇宙と三千大千世界

| | |
|----------------|----|
| はじめに | 1 |
| 科学者と仏教 | 4 |
| 三千大千世界 | 8 |
| 星の誕生 | 13 |
| 太陽の終焉 | 15 |
| 星の最期 | 17 |
| 宇宙の誕生と果て | 19 |
| おかげさまで生かされています | 23 |
| 見えない物質 | 26 |
| 浄土の「宇宙」的広がり | 28 |

表紙・背景・図3〜5
国立天文台提供

はじめに

私の実家は、広島県東広島市にある長圓寺ちようえんじという浄土真宗本願寺派のお寺です。東広島市の中山間地域です。お寺に生まれましたから、小さい頃には、祖父や父と一緒に、毎日、本堂とお内仏でおつとめをしておりました。小学校三年まで長圓寺で暮らし、その後、広島市、京都、東京と移り住みましたが、お盆や年の暮れには必ず帰省していました。長男でしたから、ゆくゆくはお寺を継承すると考えておりましたし、総代さんやご門徒の方々もそう考えておられました。大学時代に得度とくとを受け、四十代に住職になるための教師教修を受けました。

長圓寺での生活は今から五十年前のことですが、風呂焚たきや夕刻

の梵鐘ぼんしやうのかねつきは、子どもたちの仕事でした。夕焼けとともに、一番星や二番星があらわれて、境内けいだいで一緒に遊んだ近くの子らは、それぞれ帰って行きます。夜には星が大変きれいに見えて、晴れた日などは、赤い星、青い星、白い星など満天の星空でありました。よく「望遠鏡をのぞいた天文少年でしたか？」と聞かれるのですが、そうではありませんでした。今から思いますと、とても星がきれいな環境（今でもそうですが）で育ったのですが。

父も祖父も、インド哲学や中国哲学といった文系の大学を出ていきますので、家には、仏教や哲学、倫理学の書籍がたくさんある環境で育ちました。あまりにもそのような文系の書物に囲まれていたせいででしょうか、まったく異なった分野の勉強がしなくなって、中学生の頃から、アインシュタイン理論けいりゆんの啓蒙書けいもうを背伸びして読んだり、

湯川秀樹博士ゆかわひできのように、紙と鉛筆だけで研究をする理論物理学にあらがれるようになりました。その結果、物理や天文の研究を大学でするようになり、今日に至ります。

小さい頃、祖父と仏前におまいりする時、お経の中にある「三千大千世界だいせんせかい」や「於今十劫おうこんじゅう」などを読んで、広い空間や長い時間があるのだなど、子どもながらに想像していました。「仏さまの教えの中には、とてつもない広がりがある。仏さまの光は、はかり知れなく広がり、その寿命は超大である。それは、仏さまの智慧ちえと慈悲じひのはたらきが、限らないことを示しているのだ」と、意味もすっかりわからないままに、祖父に教えられたものでした。

現在、郷里に帰って、長圓寺で住職を勤めさせていただくようになりしました。今となっては、お寺にある祖父や父母が揃えたたくさ

んの書物が、仏さまの勉強をするために大いに役立っています。ありがたいことであると感謝することがしばしばで、本当にご縁を感じます。

今回は通常の法話とは違いますが、現代科学の中の宇宙観と、仏の宇宙観である「三千大千世界」を対比させながら、仏教の世界観の壮大さに触れていただいて、仏さまのはたらきのありがたさを味わっていただければと思います。

科学者と仏教

仕事柄、海外の研究施設に行くことがあります。米国プリンストン大学もその一つです。アメリカ合衆国として独立する前の、一七

〇〇年代に作られた歴史ある大学です。大学の構外にある高等研究所は、有名な科学者であるアインシュタインが研究したところでした。彼は「相対性理論」を発表し、それまでの物理学を大きく変えた研究者です。現在の宇宙観は、彼の理論に基づいています。

私は、中学時代から、アインシュタインの理論にあこがれていましたから、プリンストンで彼の昔の家を見たときは感激しました。博士には次のようなエピソードが残されています。

アインシュタインは大正時代に日本を訪れています。ノーベル物理学賞受賞の電報は、日本への旅行の途中で受け取りました。そのこともあって、当時の日本では大歓迎で迎えられたそうです。日本に着いた博士は、「せっかく東洋に来たのだから仏教のところにふれたい」と、関係者をお願いされたそうです。そこで、浄土真宗の